

## 前期行動計画の取組状況(平成25年度末時点)に対する各委員の意見

## [各取組項目に対する評価全般(総括)に対する意見]

- ・全体的には、行政改革に対する取り組み状況は良好と評価できる。(松山副委員長)
- ・行政改革大綱に基づく行動計画は、各部署での課題や推進すべき取組などを把握し、計画、実施されている。しかしながら、目標が自分でコントロールできる水準であったり、達成状況が例えば「会議を何回開催した」、「民間企業に派遣研修を実施した」など、目標ではなく、方策や手段の記載に終わっているものもある。ある目的のため実施するのであるから、目標や成果物が何なのか、あるいは実施したことにより行政運営にどのように生かされるのかを明らかにすることが必要と思う。(奥田委員)
- ・総合評価がD評価の2項目について、何故評価が低くなったのか、どうすれば評価を上げることが出来ると考えているかを具体的に記載すべきではないか。(岡本委員)
- ・数字に関しては指標となるものの提示が無いので、評価が難しい。記入してある制度の内容がわからないので、市のホームページ他を参照した。評価するのにふさわしくないような取組項目もあった。取り組み項目以外でも、助成の活用や能力育成のための施策、大和郡山市と橋本市で始める基幹システムを共同利用するクラウドへの参加、観光都市への挑戦など他市の斬新な施策や、若手の意見の積極採用など、新たな課題への挑戦もお願いしたい。(松本委員)
- ・総合評価の判断基準A～Eの内容を明確に数値にて示している事より、大きく乖離する事は少なかった。ただ、まだ成果が生じていないにも関わらず形を作成しただけで高い自己評価をしている項目がいくつか散見された。成果に繋げるべく取り組みを継続し真のA評価を獲得される事を期待する。(楠委員)

# 前期行動計画の取組状況(平成25年度末時点)に対する各委員の意見

I 市民との信頼関係に基づいたまちづくりの推進	
1 情報提供・情報共有の充実	
(1)行政運営の状況の分かりやすい情報提供・効果的な情報共有【重点】	
総合評価に対する意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページ111万アクセスの評価Cはどのような判断でそうなるか。目標値との比較に意味があるか。(松本委員)</li> <li>・取り組み状況は個々に異なるが、総合評価としてAに近いB評価にて妥当。(楠委員)</li> </ul>
●新たな情報提供方法の検討・導入	
取組に対する意見	<p>評価できる点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・シティプロモーションの推進。(松山副委員長)</li> <li>・様々なツールで情報提供しようとしている点は評価できる。広報紙を楽しみにしている高齢者がいる。(藤堂委員)</li> <li>・生駒市民に対してだけでなく、他府県、他市に対しても新聞・雑誌・リーフレットなどを活用し、生駒市の活動や魅力を広く発信していること。(奥田委員)</li> <li>・広報紙の充実。(松本委員)</li> <li>・広報紙、映像による市民だよりとしての実績大、特に斬新な職員採用募集チラシは全国的にも評価大。(楠委員)</li> </ul> <p>今後の取組課題等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インターネットHPは、仕方がないのかもしれないが、何となくごちゃごちゃしている印象がある。右側のバナーの暮らしの便利帳のところに別ウィンドウで開きますと記載してあるが、別ウィンドウにはならない。(藤堂委員)</li> <li>・生駒市の伝統工芸・文化遺産・食材など如何に企画・発信し、定住人口の増加、来街者の増加につなげるかが課題。(奥田委員)</li> <li>・情報提供の結果、どの程度定住人口の増加に繋がっているか分かりにくい。又、ホームページのアクセス数が、94.1%の達成率なら区分B評価ではないか。(岡本委員)</li> <li>・若手・中堅職員のプロジェクトの提言は活かされたのか。継続して推進してください。(松本委員)</li> <li>・生駒市の顔として、ホームページは、毎日アクセスしたくなるような内容を加えわかりやすく明るいものへの変化を期待。(楠委員)</li> </ul>
●どこでも講座(職員による行政出前講座)の積極的な活用	
取組に対する意見	<p>評価できる点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市政への参加意識の向上につながる。(松山副委員長)</li> <li>・各自治会や団体で、気軽に講座を受けられる点は大変良い。(松尾委員)</li> <li>・他市でも実施していることだが、どこでも講座を積極的に実施し、市政情報を提供していること。(奥田委員)</li> <li>・職員は事前にしっかり準備し、分かり易く説明しようとする姿勢が見受けられ、好評を得ているとの評価に同感である。(岡本委員)</li> <li>・年間70講座を確実に実施している事。(楠委員)</li> </ul> <p>今後の取組課題等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施した講座の分野等でどのような講座のニーズがあるか、あまり要望のない講座については、その理由も含めて分析し、講座内容についてもブラッシュアップを期待したい。(藤堂委員)</li> <li>・さらに充実を。(松尾委員)</li> <li>・実施回数も必要だが、参加者数や参加者の意見、その活用例等のフィードバックが必要。(奥田委員)</li> <li>・市職員がどんなことに取組んでいるかを市民が理解する良い機会ではあるが、意欲ある任意団体以外にどのように周知徹底するかが課題である。(岡本委員)</li> <li>・環境モデル都市認可を受け、又来年全国自治体会議生駒開催を控えている事から、関連講座を折り込み市民への浸透が必要。(楠委員)</li> </ul>
(2)情報共有の充実に向けたツールの活用	
総合評価に対する意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・妥当。そもそもたけまるモニター制度がベストなやり方か、検討要。(松本委員)</li> <li>・目標値に大きく達していない事よりC評価は妥当。(楠委員)</li> </ul>

●たけまるモニター制度の効果的な運用

取組に対する意見	評価できる点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民の声が届く。(松山副委員長)</li> <li>・たけモニの継続募集。(奥田委員)</li> <li>・新規加入115名は評価出来るのではないか。(岡本委員)</li> <li>・努力している事は評価。(楠委員)</li> </ul>
	今後の取組課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登録しているが、機能していない人をチェックするとのことであったがそれを実施した結果41名が解除したのか。(藤堂委員)</li> <li>・H26.5月合併号の広報紙アンケート回答者が登録者数の10%未満であった。他市町村はどのような状況なのか。質問内容等に問題はないのか。(奥田委員)</li> <li>・今は市民の約0,8%が参加。これが5%くらいになるといろいろできそう。(松本委員)</li> <li>・登録する事によるメリット(楽しさ、意見反映の喜び等)に一工夫必要。(楠委員)</li> </ul>

●パブリックコメント手続の適正な運用・充実

取組に対する意見	評価できる点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パブコメ手続の積極的活用。(松山副委員長)</li> </ul>
	今後の取組課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・提出件数の増加。(松山副委員長)</li> <li>・パブリックコメントの意見数のみを目標にするのではなく、パブリックコメントに付した文書の閲覧回数等も把握することが可能であれば検討をお願いしたい。(藤堂委員)</li> <li>・パブリックコメントの周知方法の更なる工夫。パブコメを活用した事例などフィードバックする。(奥田委員)</li> <li>・もっと簡易に提出出来る工夫が必要ではないか。又、パブリックコメントを行政にどう生かしたのかのフィードバックがあるのか。(岡本委員)</li> <li>・どこの市でも少ないようですが、パブリックコメントを求めやすいものとの選別も必要。他の手段も考慮されたい。(松本委員)</li> <li>・テーマにもよるが、①全て記述式ではなくアンケート部分を増やす②文章のみでなく、絵や写真・図表等を多くし、わかり易い内容としコメントを出しやすくする事も一案。(楠委員)</li> </ul>

2 自治基本条例による協働の取組の推進

(3)市民からの政策提案制度の導入【重点】

総合評価に対する意見		<ul style="list-style-type: none"> <li>・B評価でも良いように思う。(藤堂委員)</li> <li>・区分はAで総合評価がCとなっており、何故乖離しているのか。(岡本委員)</li> <li>・2件でA評価は問題。市民への理解度拡大への努力を含めるとC評価が妥当。(松本委員)</li> <li>・市民からの提案もあり、内1件採択した事より判断しB評価が妥当。(楠委員)</li> </ul>
取組に対する意見	評価できる点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民から提案型の政策の実施。(松山副委員長)</li> <li>・テーマを絞って募集すると成果が出るかもしれない。(松本委員)</li> </ul>
	今後の取組課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・より積極的な実行。(松山副委員長)</li> <li>・制度の周知と提案阻害要因の分析・検討。(奥田委員)</li> <li>・政策提案制度という名前が堅すぎるのではないか。例えば「市民提案制度」などに変更すべきではないか。(岡本委員)</li> <li>・政策提案制度への理解が課題。(松本委員)</li> </ul>

(4)市民、NPOなど協働のパートナーの支援【重点】

総合評価に対する意見		<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般市民にもっと分かり易いように告知が必要と思う。(松尾委員)</li> <li>・単純平均でB評価なのに、何故C評価となったのか。(岡本委員)</li> <li>・ららポート登録団体が目標に2団体届かず、C評価は厳しい。(松本委員)</li> <li>・取り組み状況8項目の評価が、A2、B4、C2より総合評価としてはB評価が妥当。(楠委員)</li> </ul>
------------	--	---

●市民が選択する市民活動団体支援制度の運用

取組に対する意見	評価できる点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民参加型の施策。(松山副委員長)</li> <li>・市民が直接市民活動団体を支援できるという制度は良い。(藤堂委員)</li> <li>・支援制度は大変良いと思う。(松尾委員)</li> <li>・ある程度浸透しているので、今後の展開が期待できる。(松本委員)</li> <li>・市民の総合評価がバロメーターとして表われる良い制度である。(楠委員)</li> </ul>
	今後の取組課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支援額の増加とその監視体制(松山副委員長)</li> <li>・登録団体が増加しない原因は何か。組織力に勝る団体が支援を勝ち取っているのではないか。(藤堂委員)</li> <li>・一部の人のみで市民に浸透がされていない。充実化を。(松尾委員)</li> <li>・市民活動が市民生活に貢献している状況など広く知らせ、少しでも多くの市民に関心を持ってもらうこと。(奥田委員)</li> <li>・登録団体が何をしようとしているかを発表する場が必要なのではないか。(岡本委員)</li> <li>・市民へのPR。(松本委員)</li> </ul>

●市民活動推進センターの効果的な運営

取組に対する意見	評価できる点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・協働自治体の方向と合致。(松山副委員長)</li> <li>・窓口対応が明るく、積極的に取り組んでいる姿が見える。(楠委員)</li> </ul>
	今後の取組課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民への広報の更なる充実。(松山副委員長)</li> <li>・SBの具現化と生駒特産品との結びつけ。(松本委員)</li> <li>・総花的な取り組みではなく、具体的な成果に結びつけるべく、引き続きテーマを決め地道に1件ずつ進められる事を期待。(楠委員)</li> </ul>

(5) 参画と協働のまちづくりを進めるための指針の策定・運用【重点】

総合評価に対する意見		<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標とするところはよいが、机上の空論になっている。(松尾委員)</li> <li>・市が原因で先送りしたわけではないので、B評価が妥当。(松本委員)</li> </ul>
取組に対する意見	評価できる点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民参画と協働の推進。(松山副委員長)</li> <li>・実施の準備については行っている。(松本委員)</li> </ul>
	今後の取組課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成果の測定。(松山副委員長)</li> <li>・指針について、行政内部で全ての職員に十分周知し、適切に運用できるよう努める必要がある。(藤堂委員)</li> <li>・地方自治法改正審議結果が出た場合、速やかに対応。(奥田委員)</li> <li>・協働・参加型事業数の調査を自治基本条例の検証と合せて実施する方が効率的な理由は何か。(岡本委員)</li> </ul>

(6) 市民自治協議会の導入に向けた取組【重点】

総合評価に対する意見		<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標とするところはよいが、机上の空論になっている。(松尾委員)</li> <li>・市民自治協議会設立の課題は多いと思われるものの、なかなか進行しない状況では、評価Dはやむを得ない。(奥田委員)</li> <li>・何故D評価なのか理由の分析と、自治協議会を推進する為の具体策構築が必要。(岡本委員)</li> <li>・難しい課題で調整や浸透に時間もかかるため、とりあえずB評価でどうか。(松本委員)</li> </ul>
取組に対する意見	評価できる点	
	今後の取組課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現自治会との関係調整。目的・意義のより明確化。(松山副委員長)</li> <li>・生駒市に適した市民自治協議会設立について、行政側も柔軟かつ積極的に関わっていかないと現状では設立の実現が難しい。市民が試行錯誤しているうちに市民側のモチベーションが低下していく危惧もある。市民活動推進課のみが担当する体制では、人員等無理があるのではないか。(藤堂委員)</li> <li>・市民や自治会が取り組みやすいところから進める必要がある。(松尾委員)</li> <li>・人手のこともあり、同時期に3～4設立することが厳しいのであれば、進行しやすい地区を選び、とりあえず1つでも2つでも設立すること。(奥田委員)</li> <li>・市民の制度への理解が先決。(松本委員)</li> </ul>

# 前期行動計画の取組状況(平成25年度末時点)に対する各委員の意見

## II 経営的視点に基づいた効率的な行政サービスの提供

### 1 事務事業の継続的な見直し

#### (7) 総合計画に基づく施策・事業の進行管理【重点】

総合評価に対する意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民満足度調査が未実施なのでC評価と思うが、市民満足度調査はいつ実施予定か。(岡本委員)</li> <li>・人口推計との差は0, 3%で誤差の範囲内。総合計画目標値達成率が理解不能。(松本委員)</li> </ul>
------------	---

#### ●後期基本計画の策定

取組に対する意見	評価できる点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・26年度以降の目標を設定すること。(松山副委員長)</li> <li>・前期基本計画を踏まえた後期基本計画の策定・推進。(奥田委員)</li> <li>・前期基本計画見極めによる後期基本計画策定への繋がりが定着してきている。(楠委員)</li> </ul>
	今後の取組課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生駒市総人口目標水準の見直しの必要性。(奥田委員)</li> <li>・構想と計画の2層構造とすることで、何がより明確になるか。(松本委員)</li> <li>・PDCAに基づく各項目での見極め及び実践。(楠委員)</li> </ul>

#### ●総合計画推進市民委員会による進行管理

取組に対する意見	評価できる点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民参加型。(松山副委員長)</li> </ul>
	今後の取組課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「住みやすさ」の生駒市での障害は何かを、より明確化する。(松山副委員長)</li> <li>・目標値の達成率が低い原因はなにか。目標値に問題はないのか。(藤堂委員)</li> <li>・適切な指標の設定、指標の達成率の向上。(奥田委員)</li> <li>・達成済みの55指標を除く71指標の達成率は何%であったか。(岡本委員)</li> <li>・達成状況と未達成の理由の関係が分からない。(松本委員)</li> </ul>

#### (8) 行政の守備範囲の検証と事務事業の精査・改善

総合評価に対する意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・BでなくCではないか。達成済みとは思えない。(松山副委員長)</li> <li>・議会広報紙1名研修目標と延べ21名参加との関係が分からない。映像音響システムは評価の対象外。(松本委員)</li> </ul>	
取組に対する意見	評価できる点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・常に行政の事務事業等の見直しを行うこと。(松山副委員長)</li> <li>・本会議録公開の迅速化。(奥田委員)</li> </ul>
	今後の取組課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・議会中継の改善、議場の放映の工夫、音声の改善等。(松山副委員長)</li> <li>・事務事業の見直しについて、各業務の改善事項と対応状況の具体的内容が不明である。(岡本委員)</li> <li>・会議録をどう迅速化したかによる。(松本委員)</li> </ul>

#### (9) 外部監査制度の導入の検討

総合評価に対する意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・D評価ではないか。(松山副委員長)</li> <li>・本件は評価のしようがない。(松本委員)</li> </ul>	
取組に対する意見	評価できる点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国の方向が定まっていないため、止むを得ない。(松山副委員長)</li> </ul>
	今後の取組課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現行の監査の運用で問題はないか。(松山副委員長)</li> <li>・国の監査制度改革の結論が出ていない状況であるが、外部機関による監査体制・経費・手法・課題等検討を始める時期。(奥田委員)</li> <li>・国の監査制度改革の結論が出なくても、生駒市独自の監査制度体制を構築出来るのではないか。(岡本委員)</li> </ul>

2 民間活用の推進

(10) 民間委託の範囲の拡充など民間活力のさらなる活用【重点】

総合評価に対する意見		<ul style="list-style-type: none"> <li>実績がゼロであるため、D評価も止むを得ない。(松山副委員長)</li> <li>目標に対して具体的成果がないためD評価。(奥田委員)</li> <li>目標にした3件の民間委託の当初予定は何だったのか。竜田川はそもそも何が問題なのか。(松本委員)</li> </ul>
取組に対する意見	評価できる点	<ul style="list-style-type: none"> <li>委託化の検討。(松山副委員長)</li> </ul>
	今後の取組課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>コストの問題だけでない。サービスの向上、業務の効率性を図るなど委託化の目的をより明確化。(松山副委員長)</li> <li>継続して業務レビューすることが必要である。(奥田委員)</li> <li>民間委託が可能な業務はどの程度あると想定しているか。(岡本委員)</li> <li>民間活用については効果を上げた他市の事例をしっかりと調査し、活かしていく。(松本委員)</li> <li>民間企業への委託同様、住民力(市民力)活用等の検討。(楠委員)</li> </ul>

(11) 指定管理者制度の導入施設拡充と効果的運用

総合評価に対する意見		<ul style="list-style-type: none"> <li>利用者の増加、高い満足度からB評価。(奥田委員)</li> <li>生涯学習施設管理運営がAの根拠と、利用者数目標と達成値が24万人も違うのはなぜか。(松本委員)</li> </ul>
取組に対する意見	評価できる点	<ul style="list-style-type: none"> <li>指定管理者へのモニタリング手法。(松山副委員長)</li> </ul>
	今後の取組課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>たけまるホール等生涯学習施設の稼働率向上。(松山副委員長)</li> <li>指定管理者による施設の運営・企画等の継続的管理。(奥田委員)</li> <li>指定管理者のサービスの確認・評価する手法の策定が目標であるにも関わらず、何故、不動産売却に伴う嘱託登記が達成状況になるのか。(岡本委員)</li> <li>モニタリングにおいて指定管理者に望むレベルをどう考えるか難しい。活性化・合理化が本当に図れているか。(松本委員)</li> </ul>

3 行政資源の有効活用・効率的な管理運営

(12) 既存公共施設の長寿命化に向けた中長期的な計画策定【重点】

総合評価に対する意見		<ul style="list-style-type: none"> <li>計画通り進めているので、評価はB。(松本委員)</li> </ul>
取組に対する意見	評価できる点	<ul style="list-style-type: none"> <li>修繕計画の立案。施設の保守の向上。(松山副委員長)</li> <li>早目に手を打っている。(松本委員)</li> <li>計画に基づきしっかり実践している。(楠委員)</li> </ul>
	今後の取組課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設の改修の必要性の見通し(優先順位)の明示。(松山副委員長)</li> <li>未達成の理由に施設カルテの作成までに止めたとあるが、修繕計画の立案件数が目標11件に対し47件達成と大幅増加していることとの整合性が不明。(岡本委員)</li> <li>予算との兼ね合いがあるが早目の着手が望ましい。(松本委員)</li> <li>国からの総合管理計画策定要請との連動。(楠委員)</li> </ul>

4 環境に配慮した施策・事業の推進

(13) 環境マネジメントシステムの推進による公共施設の省エネルギー化【重点】

総合評価に対する意見		<ul style="list-style-type: none"> <li>LAS-Eの合格取得目標が第2ステージ第2ステップであれば、第1ステップの取得であるので評価はBではなくC。(奥田委員)</li> </ul>
<b>●環境マネジメントシステムの推進</b>		
取組に対する意見	評価できる点	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境への取組。(松山副委員長)</li> <li>LAS-Eにおける市民監査も定着し浸透している。(楠委員)</li> </ul>
	今後の取組課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>合格証第2ステージ第2ステップ取得目標が第1ステップで止まった理由が不明。(岡本委員)</li> <li>第2ステージ第2ステップに向け更なるレベルアップした対応。(楠委員)</li> </ul>

●再生可能エネルギーの活用		
取組に対する意見	評価できる点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境への取組。(松山副委員長)</li> <li>・小水力発電の具現化。(松尾委員)</li> <li>・小水力発電及びアースソーラの設置。(奥田委員)</li> <li>・市民主導の取り組みに対し市としての支援対応実施。(楠委員)</li> </ul>
	今後の取組課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・更なる推進への方策。(松山副委員長)</li> <li>・農業用のため池を利用した小水力発電や生駒山を利用した風力発電は？(松尾委員)</li> <li>・市民団体と行政による太陽光発電施設の更なる設置。(奥田委員)</li> <li>・今回の取り組みを切り口とし、市民への浸透拡大を目指し市民との協同活動の展開。(楠委員)</li> </ul>
●自治会防犯灯のLED化		
取組に対する意見	評価できる点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・LED化。(松山副委員長)</li> <li>・LEDへの完全切り替えは大変良い。(松尾委員)</li> <li>・早期に予算化して実施したこと。(奥田委員)</li> <li>・自治会との連携協力による実践。(楠委員)</li> </ul>
	今後の取組課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既に実施済みの事業であるが、明りが広範囲に及ばないとか、農作物生育に影響が出たところもあり、照度を落とした等の話を聞いたが、その後問題はないのか。(藤堂委員)</li> </ul>
(14)ごみ半減プランの推進【重点】		
総合評価に対する意見		<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民が理解不足であり、もっと徹底した説明が必要である(分別も完全に出来ていない)。(松尾委員)</li> <li>・努力しているが成果が見えてこないで、B評価が妥当。(松本委員)</li> </ul>
●家庭系ごみへの有料制の導入		
取組に対する意見	評価できる点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゴミに対する意識向上。(松山副委員長)</li> <li>・削減会議の努力。(松本委員)</li> <li>・ごみ半減化に向け、外堀を埋めるべくスーパー等を巻き込みゴミ袋有料化に向け着実に推進。(楠委員)</li> </ul>
	今後の取組課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適正な運用を図るための問題点整理と対策。(松山副委員長)</li> <li>・市民への十分な広報を実施し、有料制導入に伴う混乱や、不法投棄防止等に対応をお願いしたい。有料制導入により、ごみが減少することは予想できるが、慣れによるリバウンドが生じないように、継続した啓発が必要と考える。(藤堂委員)</li> <li>・市民が理解不足であり、もっと徹底した説明が必要である。(松尾委員)</li> <li>・有料制による市民の負担理由、税収の使い道。ごみ減量・資源化促進の目的の周知、意識の醸成と不法投棄対策。(奥田委員)</li> <li>・市内3地区でのゴミ半減トライアルの結果がどうであったか。(岡本委員)</li> <li>・トライアルでは削減は3%台で半減にはほど遠い。有料化と削減率との相関関係はあまりないように思える。(松本委員)</li> <li>・ごみ半減に向け目標数値を明確にして実践。(楠委員)</li> </ul>
●事業系ごみの減量・資源化の促進		
取組に対する意見	評価できる点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゴミ減量、資源化への啓発。(松山副委員長)</li> <li>・減量化計画書提出率100%(楠委員)</li> </ul>
	今後の取組課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・着実な減量の実行のための方策。(松山副委員長)</li> <li>・市民が理解不足であり、もっと徹底した説明が必要である。(松尾委員)</li> <li>・ごみ減量、資源化促進の目的の周知、意識の醸成と不法投棄対策。(奥田委員)</li> <li>・事業者の理解と連携。(松本委員)</li> <li>・各事業所毎の実績把握、見える化。(楠委員)</li> </ul>

●ごみの再資源化の推進

取組に対する意見	評価できる点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登録団体の増加。(松山副委員長)</li> <li>・集団資源回収登録団体数151団体。(楠委員)</li> </ul>
	今後の取組課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・再資源化の推進。20%水準の向上。(松山副委員長)</li> <li>・生ごみの再資源化を効率的に実施する具体的見込みはあるか。(藤堂委員)</li> <li>・市民が理解不足であり、もっと徹底した説明が必要である。(松尾委員)</li> <li>・集団資源回収の更なる推進、集団回収拠点での業者による違法持ち帰り対策。(奥田委員)</li> <li>・プラスチック製容器包装が分別の困難さが原因で目標が達成出来なかったとあるが、有料化になれば、収集量が増える見通しなのか。(岡本委員)</li> <li>・小型家電分別の3台の予算化の意味がよくわからない。(松本委員)</li> <li>・登録団体毎の実績把握、見える化。(楠委員)</li> </ul>



## 前期行動計画の取組状況(平成25年度末時点)に対する各委員の意見

### III 自立した自治体への変革

#### 1 財政規律を確保するための財政指標の目標値の設定

##### (15) 財政計画に基づく経常収支比率等の指標管理【重点】

総合評価に対する意見		<ul style="list-style-type: none"> <li>・財政運営のたゆまぬ努力による経常収支比率等指標が改善された結果のB評価。(奥田委員)</li> <li>・平成25年度の経常収支比率以下の今年度の目標水準と数値目標の目標の数字が違っている。(岡本委員)</li> </ul>
取組に対する意見	評価できる点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・財務比率の健全性。(松山副委員長)</li> <li>・経常収支比率の減少。(松本委員)</li> <li>・全体として順当に推移しているが特に経常収支比率等の達成。(楠委員)</li> </ul>
	今後の取組課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基金の目的と有効活用。(松山副委員長)</li> <li>・余裕資金の更なる効率的運営。(奥田委員)</li> <li>・事務の効率化、合理化、経費の削減。(松本委員)</li> <li>・継続達成に向け、引き続き具体的な対応の実践。(楠委員)</li> </ul>

#### 2 財源確保の取組

##### (16) 中長期的な税財源等の安定確保に向けた重点投資【重点】

総合評価に対する意見		<ul style="list-style-type: none"> <li>・「(仮称)南こども園」の取り組みは2つの区分を一つにした方がわかりやすい。(森委員長)</li> <li>・C評価であるが、B評価にできないか。(松山副委員長)</li> <li>・小子化対策への重点投資(保育施設・子ども園等)。(松尾委員)</li> <li>・全ての取り組み状況がBであれば、C評価ではなくB評価が妥当。(楠委員)</li> </ul>
------------	--	--

##### ●定住促進のための子育て施策の充実

取組に対する意見	評価できる点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若い世代、特に子育て世代への施策。(松山副委員長)</li> <li>・保育園の充実については評価できる。保育園のニーズの高まりに反して幼稚園入園者が減少しているため、こども園の開設も評価できる。(藤堂委員)</li> <li>・市民の要望に対応した預かり保育の時間延長。(奥田委員)</li> <li>・学研パブリッシングの調査で「主婦が幸せに暮らせる街」の全国調査で生駒市が7位になったことに繋がったと考えるか。(岡本委員)</li> <li>・長時間保育の実施。みっきランドの推進。(松本委員)</li> </ul>
	今後の取組課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小子化対策への重点投資(保育施設・子ども園等)。(松尾委員)</li> <li>・幼保一体による効率的運営。(奥田委員)</li> <li>・学童保育の充実。(松本委員)</li> </ul>

##### ●企業立地施策・既存産業振興策の推進

取組に対する意見	評価できる点	
	今後の取組課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・税財源確保という視点からいえば、「企業誘致」だけでなく、市民による事業の開業も指標に入れたほうがよいのではないか。(森委員長)</li> <li>・道路等アクセスの整備。(松山副委員長)</li> <li>・市有未利用地の売却にあたって、オークション制度による売却ではなく、生駒市としての街づくりに整合性が取れるよう積極的に関与すべきではないか。(岡本委員)</li> <li>・誘致企業の選定。市のブランドに合う企業。観光資源の活用。(松本委員)</li> </ul>

(17)市税の収納対策の推進		
総合評価に対する意見		<ul style="list-style-type: none"> <li>・「滞納:〇〇%以上」という表記がわかりにくいので、修正する必要があるように思います(3か所)。(森委員長)</li> <li>・A評価ではなく、B評価ではないか。(松山副委員長)</li> <li>・評価をAからBに。(奥田委員)</li> <li>・目標水準から言えばB評価が妥当。(松本委員)</li> <li>・市県民税徴収率を除き他の全ての項目にてAであり、C区分の市県民税徴収率も金額としては前年を上回っている事よりA評価が妥当。(楠委員)</li> </ul>
取組に対する意見	評価できる点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・徴収率の目標を上回り、徴収体制の強化。(松山副委員長)</li> <li>・税の休日・夜間窓口の開設。(奥田委員)</li> <li>・ほとんどの取組み評価がA区分である事。(楠委員)</li> </ul>
	今後の取組課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・滞納分の回収率がまだまだ低い。(松山副委員長)</li> <li>・上記開設回数だけでなく、参加人数、相談件数、納税者数・額等の把握・推進が必要。(奥田委員)</li> <li>・市税合計徴収率、国保税徴収率は関西各自治体と比較して良好か。(岡本委員)</li> <li>・コンビニ納付なども活用し、一層の向上を図る。(松本委員)</li> <li>・成果の継続に向け引き続き地道な取組み期待。(楠委員)</li> </ul>

### 3 職員定数・給与の適正な管理

#### (18)行政需要等を踏まえた職員数の適正管理【重点】

総合評価に対する意見		<ul style="list-style-type: none"> <li>・行政組織の見直しによる課数削減が進んでいない事より取組状況はC区分であり、総合評価としてもC評価が妥当。(楠委員)</li> </ul>
取組に対する意見	評価できる点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員数の適正管理に力点。(松山副委員長)</li> <li>・正職員数が目標に向かって減少している。(奥田委員)</li> </ul>
	今後の取組課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・非常勤職員・パートの動向に注視。(松山副委員長)</li> <li>・実際に業務内容に応じた職員数になっているのか疑問がある。(藤堂委員)</li> <li>・人件費(正職員、再任用職員、臨時職員、アルバイト他)のバランス、総労働時間等の把握が必要。(奥田委員)</li> <li>・職員数の800名以下への達成年度を平成26年度から30年度に変更された理由は何か。(岡本委員)</li> <li>・古い条例に基づく仕事や、余計な仕事の分別をすることが人員削減につながる。(松本委員)</li> </ul>

#### (19)人件費の総額管理と能力・実績を重視した給与制度の構築【重点】

総合評価に対する意見		<ul style="list-style-type: none"> <li>・制度作りもいいが、運用も大事。B評価が妥当。(松本委員)</li> <li>・行政経営会議の開催等取組は評価するも、具体的な時間外勤務時間縮減の数値が提示されていない。又人事評価制度も26年度からの導入が決定した事は評価するが運用及び成果はこれからであり総合評価としてB評価が妥当。(楠委員)</li> </ul>
取組に対する意見	評価できる点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時間外勤務の管理。(松山副委員長)</li> <li>・人事評価の昇進、賞与等処遇への反映。(奥田委員)</li> <li>・時間外勤務の削減。(松本委員)</li> <li>・人事評価制度H26年度より全職員に導入決定。(楠委員)</li> </ul>
	今後の取組課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人件費の総額の推移を明示。(松山副委員長)</li> <li>・全職員への反映。(奥田委員)</li> <li>・人事評価制度の導入で、職員に具体的な変化が見られるか。(岡本委員)</li> <li>・評価者の訓練。制度理解の徹底。(松本委員)</li> <li>・時間外勤務時間縮減目標及び実績の明確化。(楠委員)</li> </ul>

4 適正な人事管理と職員の能力向上

(20)能力と意欲に応じた柔軟な任用制度の構築【重点】

総合評価に対する意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・A評価 ? (松山副委員長)</li> <li>・評価をAからBへ。(奥田委員)</li> <li>・標準的な仕事内容と思われる。(松本委員)</li> <li>・H26年度より新任用制度に基づきスタートした事は評価するも、成果はこれからでありA評価は甘い、まずは謙虚に総合評価としてB評価が妥当。(楠委員)</li> </ul>
------------	---

●能力と実績を重視した新たな任用制度の構築

取組に対する意見	評価できる点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昇格・昇給制度の見直し。(松山副委員長)</li> <li>・昇任試験制度の実施。(奥田委員)</li> <li>・年功主査の廃止。(松本委員)</li> <li>・H26年度より新任用制度に基づきスタート出来る様、調査・検討・制度化を図った事。(楠委員)</li> </ul>
	今後の取組課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昇任試験内容の充実。(奥田委員)</li> <li>・年功制から新しい人事評価制に代えて、何が変わったか。(岡本委員)</li> <li>・職員のキャリア育成のための制度づくり。(松本委員)</li> <li>・運用を開始した昇給・昇格制度の定着化及び有効化の見極め。(楠委員)</li> </ul>

●再任用職員の効果的な活用

取組に対する意見	評価できる点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・再任用制度の見直し。(松山副委員長)</li> <li>・無年金年齢への対応。(松本委員)</li> <li>・H26年度採用者より再任用制度を見直しスタート出来る様、制度構築を図った事。(楠委員)</li> </ul>
	今後の取組課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活費の確保でなく、あくまでも業務に沿った人事。(松山副委員長)</li> <li>・再任用者数の推移と予測は把握出来ているか。違う職場での任用か。仕事に意欲的に取り組むことの出来る制度設計になっているか。(岡本委員)</li> <li>・再任用職員への動機づけ。肩書などの工夫。(松本委員)</li> <li>・再任用職員の業務成果及びモチベーション等の確認。(楠委員)</li> </ul>

(21)人事評価制度の効果的な運用

総合評価に対する意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・A評価 ? (松山副委員長)</li> <li>・評価をAからBへ。(奥田委員)</li> <li>・出来栄次第でA評価も可。(松本委員)</li> <li>・人事評価制度をスタートした事は評価するも定着し初めてA評価であり、この時点では総合評価としてB評価が妥当。(楠委員)</li> </ul>	
取組に対する意見	評価できる点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標達成度評価。(松山副委員長)</li> <li>・能力や実績を重視した人事管理。(松本委員)</li> </ul>
	今後の取組課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・客観性の確保。(松山副委員長)</li> <li>・公平で透明性が高いということが何で担保されているか。(松本委員)</li> </ul>

(22)職員の資質向上・能力開発の推進

総合評価に対する意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「14都市の先進都市調査を行った」のはよいが、単に訪問しただけの印象を受ける。それが職員の能力開発と具体的にどう結びついているのかをたとえば報告書とその内容の中身から達成状況を評価しなければならないのではないか。(森委員長)</li> <li>・内政研修の努力を認めてA評価。(松本委員)</li> </ul>
------------	---

取組に対する意見	評価できる点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メンタルヘルス。(松山副委員長)</li> <li>・職員の能力アップに対する取組。(奥田委員)</li> <li>・チャリロゲ、赤ちゃん駅はぜひ進めてください。(松本委員)</li> <li>・コスト意識・お客様第一の顧客意識を養う意味でも民間企業派遣研修の実施。(楠委員)</li> </ul>
	今後の取組課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員のスキルアップのための方策。(松山副委員長)</li> <li>・メンタルヘルスケアについて、問題を抱えている職員の現状と、それが解決したのかどうかについての検証が必要ではないか。(藤堂委員)</li> <li>・民間企業での研修、他市への調査・情報収集など目的、成果、今後の活用が見えない。(奥田委員)</li> <li>・職員の能力向上を目指した様々な研修を行い、どのような具体的成果が認められるかのコメントが必要ではないか。(岡本委員)</li> <li>・受け入れ企業は大阪、東京、愛知など私で良ければご紹介します。(松本委員)</li> </ul>

5 機能的で分かりやすい組織・機構の構築

(23) 重点施策を効果的に推進できる組織機構の構築と柔軟な運営【重点】

総合評価に対する意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民に分かり易い、市庁舎内での横の連絡が不十分(たらいまわしが多い)。(松尾委員)</li> <li>・業務分担、人員配置の検討会議を6階開催したが、指標の作成が出来なかったのであれば、評価はBからCへ。(奥田委員)</li> <li>・数値目標である調査が未実施にもかかわらず、総合評価をBにした理由な何か。(岡本委員)</li> <li>・取り組み始めたばかりで本来なら評価できない。(松本委員)</li> </ul>
------------	---

●効率的で柔軟な組織の編成

取組に対する意見	評価できる点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・組織名と業務内容のわかりよさ。(松山副委員長)</li> <li>・行政組織は行政運営が効率的に実施できるよう、絶えず見直しが必要であり、再編が行われた。(奥田委員)</li> <li>・これから。(松本委員)</li> <li>・重点施策を進めるため多くの具体的な取り組み実践。(楠委員)</li> </ul>
	今後の取組課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワンストップサービス。(松山副委員長)</li> <li>・プロジェクトチームによる6回の会議は達成状況ではなく、指標の作成が期末の目標である。(奥田委員)</li> <li>・行政企画会議の効果的な運営を目指して、どのように取組んだか。(岡本委員)</li> <li>・柔軟な組織とは何か。縦割り行政でそれが可能か。ITの活用も課題。(松本委員)</li> <li>・効果的で柔軟な組織編成に伴う成果の見極め。(楠委員)</li> </ul>

●PTなど横断的な組織の積極的な設置

取組に対する意見	評価できる点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・横断的な組織。(松山副委員長)</li> <li>・課題解決のためプロジェクトチームを設置し、横断的な人材を活用した。(奥田委員)</li> <li>・重点施策を進めるため多くの具体的な取り組み実践。(楠委員)</li> </ul>
	今後の取組課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各部署の理解と協力が必要である。また、責任と権限を明確にすることが大切である。(奥田委員)</li> <li>・情報発信力推進チームの成果はどうだったか。(松本委員)</li> <li>・PT設置に伴う成果の見極め。(楠委員)</li> </ul>

(24) 現場への権限委譲の促進

総合評価に対する意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修に参加させたことが評価対象でなく、スキルの向上など成果が上がることが重要。(松本委員)</li> </ul>	
取組に対する意見	評価できる点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・迅速な事務。(松山副委員長)</li> <li>・職場スキルの向上。(奥田委員)</li> </ul>
	今後の取組課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成25年度に決裁権限を大幅に拡大済みにもかかわらず、26年度も決裁事項の拡大を目標としたことに問題があるのではないか。(岡本委員)</li> <li>・現場への権限委譲によるメリット、デメリットの検討。(松本委員)</li> </ul>